

天声人語

若き才能の奇想天外とも言える活躍だった。「棋聰天才」の藤井聰太四段が成し遂げた「連聰棋録」に胸が躍った。陸上100mで9秒台を出した桐生祥秀選手の「桐走十内」の疾走も光った。住友生命が募った年末恒例の創作四字熟語で、今年を振り返る▼伸びる一方のネット通販。その陰で疲弊する現場の叫びが伝わってくる「荷方困配」の宅配業界である。世の不満が煽り運転につながっているのか、「煽々恐々」の路上もある▼自然の脅威を感じたのは、船上からのヒアリの侵入だ。「蟻来迷惑」だが、手をこまねいてはいられない。夏には長雨にたたられた地域があり「閉口雨続」の日々だった。「危険水威」のゲリラ豪雨は、すでに日常風景である▼世界ではこわもての指導者が幅をきかせ、礼賛する歌まで街に流れる習近平総書記はまさに「中央習權」。馬耳東風ならぬ「万事虎風」のトランプ大統領の振る舞いに、慣れてしまったのが怖い▼食べ物も観光地も写真でインスタ映えしなければ売り込めないと「映利多売」が目立つ。問題すべてがうんこに関連するドリルがヒットし、「便教熱心」の子どもが増えたそうな▼熟語の応募は11月初めまで。その後のニュースを小欄が補ってみた。引退した元横綱がいま口を開いて気持ちを述べるなら「悔綱一晩」となるか。首相が「丁寧に説明する」と臨んだ特別国会は、十分な答弁も掘り下げる調査もなく終わった。「不答不掘」の姿勢を来年も続けるのは、勘弁してほしい。